



アルメニアからみたアララト火山の切手

P. Q.

ソ連邦のアルメニア共和国はコーカサス山脈の南 外
コーカサスにあって トルコ・イランと国境を接し 葡
萄酒と美人の国 長寿者の多いことで知られている。
この国からトルコとの国境を越えた35マイル南にあるア
ララト火山(Ararat)が余程美しく見えるのか アルメニ
アを主題にした切手には この火山を画くのが多い。

アララト火山はトルコのアナトリア地方にあって アル
メニアからみて右手の大きく高い円錐形のが大アララ
ト山(海拔約5,165m)で雪線が海拔約4,300mにある。
大アララトはノアの箱舟が漂着した話で有名であるが
この話は20世紀初めから「ノアの箱舟発見」の 科学的
粧いをこらした話として伝えられ つい最近には箱舟が
アーツ衛星からの写真に映っていたと外電すらにぎわす
始末である。 左の円錐形は小アララト山(海拔約4,000
m)でいずれもおもに玄武岩からなる成層火山である。

小アジアのこの地方は 白亜紀後期から古第三紀にか
けて安山岩 粗面岩の火山活動が激しく 中新世から新
第三紀末期は粗面岩 石英安山岩 流紋岩の活動があり
それから玄武岩の活動へと移って行った。

アララトは古期の山体は大部分が角閃石安山岩である

が 上部は玄武岩の溶岩流からなる。 山体の形成は
①溶岩流の形態が原型に近く 植生が及んでいなく ②よく保
たれた火口があり ③溶岩流の末端と礫層との関係 ④付近に
ある新期の火山との形態との比較 などから 新第三紀末—
更新世初期と考えられている。

この山の初登頂は1829年に Friedrich Parrot によっ
て行なわれた。

25000: 1921年ポリシェビイキがアルメニアを制圧した
時に発行された切手。 インフレを反映してか高額である。

20K: 1950年11月29日 アルメニア共和国30周年記念
3種のひとつで 葡萄摘みとアララトが画かれている。

40K: アルメニアの小説家アボビアン生誕150年記念。
背後にアララトが画かれている。 1956年2月26日発行。
小説家アボビアンについては不明。

4Kおよび12K: 1968年11月28日発行アルメニアの首府
エレバン2750年記念。 紀元前9~6世紀にかけて 今
のトルコ共和国の東北からアルメニアにかけてを領土と
した ウラルトゥ(Urartu)という国が
あった。 ウラルトゥはその最盛期に
はアッシリアと争った強国だった。

エレバン市の周辺にはウラルトゥの遺
跡が少なくない。 エレバンの名前自
体も紀元前783年に現在のエレバン市
のところに建設された ウラルトゥの
要塞エレヴニから起ったもので 切手
の発行された1968年はこれから算えて
2750年というわけらしい。 アララト
という名前もウラルトゥのヘブライ形
である。

他に1947年 1957年 1967年発行の
革命30 40 50周年各共和国を現わす
切手のうち アルメニアの分には必ら
ずアララトが画かれている。

